

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法科 昼間Ⅰ部) 2025年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任 企業等との連携
○			国際教育学	英会話を通してコミュニケーション能力を身につけます。国際的な感性を身につける。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			情報社会学	コンピュータの基本的な操作方法を学び、ワード、エクセルなどのソフトウェアの使用方法を習得し、症例検討会資料の作成ができる。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			心理学	心理学の基礎、心理テストなどを通して人の心の動きを学び、相手を理解するための基礎知識を身につける。	1 年 前 期	30	2	○			○		○	
○			教養演習	臨床実習に備えた文章読解力や説明能力を養う。	1 年 前 期	30	2	○			○		○	○
○			自然科学	力学や生物の構造を学び、人体の基礎知識と運動の基礎知識を身につける。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			統計学	医療に必要な統計手法を使えるようになる。	3 年 前 期	15	1	○			○			○
○			保健体育	スポーツ活動を通して、スポーツに伴う身体の変化、障害の発生、予防法を学び実践できるようになる。	1 年 前 期	45	1			○	○	○	○	○
○			人間関係論	人間関係の築き方や相手とのかかわり方、コミュニケーションのとり方について学び、対人関係の方法を実践することができる。	1 年 後 期	30	2	○			○		○	
○			解剖生理学Ⅰ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			解剖生理学Ⅱ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			解剖生理学Ⅲ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1 年 後 期	30	2	○			○			○
○			解剖生理学Ⅳ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1 年 前 期	30	2	○			○			○
○			解剖生理学Ⅴ	人体の脳・神経系・感覚器系・内臓系の構造について学びます。中枢神経系と運動器系のつながりを理解することができる。	1 年 前 期	30	2	○			○			○

○		解剖生理学Ⅵ	人体の各組織の3次元的位置とその機能について理解できる。触診可能な組織の触診ができるようになる。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○		解剖生理学実習Ⅰ	身体各部の筋の形状や重なりについて学ぶ。MMTの模倣を実施する。	1 年後期	45	1			○	○			○	
○		解剖生理学実習Ⅱ	解剖生理学ⅣⅤで学んだ基礎的な知識を基に実習を行い、より深い理解と臨床への活用につなげる。	1 年後期	45	1			○	○			○	
○		基礎運動学	中枢神経系のメカニズムおよび機能について理解できる。また、筋の構造および反射について学ぶ。	1 年前期	30	2	○			○		○		
○		運動学Ⅰ	上肢の運動学を中心に運動器の構造・機能を学び理解することができる。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○		運動学Ⅱ	下肢の運動学を中心に運動器の構造・機能を学び理解することができる。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○		運動学Ⅲ	体幹の運動学を中心に運動器の構造・機能を学び理解することができる。また、運動学習について理論を学ぶ。	2 年前期	30	2	○			○			○	
○		運動学実習	日常生活動作の概念や使用機器の知識を深め、日常生活活動の実技を通して、その評価・治療技術を習得することができる。	2 年前期	45	1	△		○	○		○	○	
○		人間発達学	ヒトの心身のはたらき（運動機能、認知機能、社会性等）について、発達段階の特徴を学ぶ。	1 年後期	15	1	○			○			○	
○		老年学	高齢者の特性や、高齢者に特徴的な疾患の病態・診断・治療および予防について理解することができる。	1 年後期	15	1	○			○		○		
○		病理学	疾病を学ぶにあたり、組織・細胞などの形態学的な病変について理解できる。	1 年後期	15	1	○			○			○	
○		外科学	外科侵襲の病態生理や手術技法など、外科学の総論を学ぶ。	1 年後期	15	1	○			○			○	
○		一般臨床医学	公衆衛生学（生活・疫学など）と栄養学（栄養の基礎）について学ぶ。	1 年後期	15	1	○			○			○	
○		薬理学	生化学、薬の作用様式・作用機序などを学び、薬物治療の基礎を理解する。	1 年後期	15	1	○			○			○	
○		内科学	内科的疾患の病態・診断・治療について理解できる。	2 年前期	30	2	○			○			○	
○		整形外科Ⅰ	整形外科的疾患の病態・診断・治療について理解できる。	1 年後期	30	2	○			○			○	
○		整形外科Ⅱ		2 年前期	30	2	○			○			○	

○		脳神経内科学 Ⅰ	脳神経内科学的疾患の病態・診断・治療について学び、リハビリテーションの対象疾患の概要を学ぶ。	1 年後期	30	2	○			○		○	
○		脳神経内科学 Ⅱ		2 年前期	30	2	○			○		○	
○		精神医学	精神疾患の病態・診断・治療について理解できる。	1 年後期	30	2	○			○		○	
○		小児科学	小児疾患の病態・診断・治療について理解できる。	2 年前期	15	1	○			○		○	
○		臨床心理学	臨床現場で生かすことのできる臨床心理の理論や心理検査、心理療法について学ぶ。	1 年後期	15	1	○			○		○	
○		画像診断学	X線、CT、MRIの仕組みと、画像の読影を学び、診断や評価の一助にする知識を身につける。	1 年後期	15	1	○			○		○	
○		医学概論	医療全体の歴史的な流れや現状と問題点について学ぶ。	1 年前期	15	1	○			○		○	
○		社会福祉学	社会福祉の理念と意義について学び、関連する制度・施策や動向などを理解する。	2 年前期	30	2	○			○		○	
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の基本的な知識、評価法、診断、技術の実際を理解することができる。	1 年前期	15	1	○			○		○	
○		チーム医療論	医療従事者として多職種連携の基礎を理解することができる。	1 年前期	15	1	○			○		○	○
○		理学療法概論	理学療法の歴史・定義などについて学び、関係法規や業務内容についても知り、職業理解を深める。	1 年前期	30	2	○			○		○	
○		基礎理学療法学Ⅰ	理学療法の基礎となる筋骨格系の障害を理解することができる。	2 年前期	30	2	○			○		○	
○		基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎となる中枢神経系の障害を理解することができる。	2 年前期	30	2	○			○		○	
○		理学療法研究法	研究の意義や必要性、レポートの作成方法や症例・研究発表の方法を理解し実践できるようにする。	3 年前期	15	1	○		△	○		○	
○		理学療法管理学	管理・マネジメントの考え方を学び、組織運営・職場管理について身につける。	3 年前期	30	2	○			○		○	
○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の概要、目的などを理解し、血圧測定・形態計測・関節可動域測定を行うことができる。	1 年後期	30	2	○		△	○		○	

	○			理学療法評価学Ⅱ	徒手筋力検査法の意義・方法論などを理解し、実技を通して徒手筋力測定ができるようになる。	2年前期	30	2	○		△	○		○	
	○			理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患の評価、整形外科テスト法ができるようになる。	2年後期	30	2	○		△	○			○
	○			理学療法評価学演習Ⅰ	理学療法評価の概要を理解した上で、評価項目・手順を理解し、評価を行うことができる。	2年後期	15	1		○		○		○	
	○			理学療法評価学演習Ⅱ	理学療法評価の概要を理解した上で、評価項目・手順を理解し、行った評価から問題点の抽出をすることができる。	3年前期	15	1		○		○		○	
	○			OSCEⅠ	臨床実習Ⅲ、Ⅳにて検査測定、評価が実践できる。	2年後期	30	2		△	○	○		○	
	○			OSCEⅡ	臨床実習Ⅴ、Ⅵにて検査測定、評価および治療プログラムの実施ができる。	3年前期	30	2		△	○	○		○	
	○			基礎運動療法学Ⅰ	関節可動域運動・筋力増強運動など、基本的な理学療法治療技術を学び理解することができる。	1年後期	30	2	△		○	○		○	
	○			基礎運動療法学Ⅱ	起居動作の観察及び文章化ができる。また、観察したこととの分析ができる。	2年後期	30	2	○			○		○	
	○			筋骨格系障害 理学療法治療学Ⅰ	整形外科疾患の評価・治療を実践することができる。	2年前期	30	2	○		△	○			○
	○			筋骨格系障害 理学療法治療学Ⅱ	脊髄損傷の評価・治療を実践することができる。	2年前期	30	2	○			○			○
	○			筋骨格系障害 理学療法治療学Ⅲ	スポーツ外傷・障害に対し、評価・治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○		△	○		○	○
	○			中枢神経系障害 理学療法治療学Ⅰ	脳血管障害についての評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年前期	30	2	○			○			○
	○			中枢神経系障害 理学療法治療学Ⅱ	神経筋障害についての評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○		△	○			○
	○			中枢神経系障害 理学療法治療学Ⅲ	小児・老人疾患について理学療法評価および治療について学び技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○			○			○
	○			内部障害理学療法治療学Ⅰ	心臓疾患に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○			○			○
	○			内部障害理学療法治療学Ⅱ	呼吸器疾患に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○		△	○			○
	○			内部障害理学療法治療学Ⅲ	腎疾患、嚥下、糖尿病、癌に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○			○		○	○

○		機能障害学特論Ⅰ	骨関節・神経・内臓系の構造と機能について解剖・生理学の知識の整理をし、その繋がりについて説明することができる。	3 年 前 期	30	2	○			○		○		
○		機能障害学特論Ⅱ	運動学について解剖・生理学の知識をもとに説明することができ、臨床運動学に応用することができる。	3 年 前 期	30	2	○			○		○		
○		機能障害学特論Ⅲ	整形外科・神経内科・内科的疾患について解剖生理運動学の知識をもとに説明することができる。	3 年 後 期	30	2	○			○		○		
○		機能障害学特論Ⅳ	骨関節系・中枢神経系・内部障害系疾患に対する理学療法を、疾患学をもとに考え説明することができる。	3 年 後 期	30	2	○			○		○		
○		物理療法学	物理療法の概念や適応・禁忌を学び理解することができる。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
○		物理療法学演習	物理療法の実技を通して機器の使用方法を習得することができる。	2 年 後 期	30	2		○		○			○	
○		日常生活活動	日常生活活動の概念や使用機器の知識を深め、日常生活活動の実技を通して、その評価・治療技術を習得することができる。	2 年 前 期	30	2	○			○		○		
○		義肢装具学	義肢・装具の構造と機能、各疾患の適応について理解することができる。	2 年 前 期	30	2	○			○			○	
○		義肢装具学実習	義肢・義足のアライメントを理解し義肢装着者の歩容を観察し、問題点を説明できる。	2 年 前 期	45	1	△		○	○			○	
○		理学療法学演習Ⅰ	解剖学生理学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	1 年 前 期	30	2		○		○		○		
○		理学療法学演習Ⅱ	解剖学生理学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	1 年 後 期	30	2		○		○		○		
○		理学療法学演習Ⅲ	理学療法評価の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	2 年 前 期	30	2		○		○		○		
○		理学療法学演習Ⅳ	臨床医学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	2 年 後 期	30	2		○		○		○		
○		生活環境論	ICFと対応させながら生活環境の意味を考え、理学療法、リハビリテーションの理解を深める。	2 年 前 期	30	2	○			○		○		
○		地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学び、現在の社会の流れについても理解し、社会資源の活用のアドバイスができる。	3 年 前 期	30	2	○			○		○	○	
○		臨床実習Ⅰ	実習施設の見学を中心に、全体業務全般の理解ができる。	1 年 後 期	45	1			○		○		○	○
○		臨床実習Ⅱ	実習施設の見学を中心に、全体業務全般の理解ができる。	1 年 後 期	45	1			○		○		○	○

○			臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者のもと、検査測定を中心に理学療法評価ができる。	2 年 後 期	90	2			○		○		○	○
○			臨床実習Ⅳ	臨床実習指導者のもと、理学療法評価ができる。	2 年 後 期	135	3			○		○		○	○
○			臨床実習Ⅴ	学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、治療プログラムを立案し、理学療法ができる。	3 年 前 期	315	7			○		○		○	○
○			臨床実習Ⅵ	学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、治療プログラムを立案し、理学療法ができる。	3 年 前 期	315	7			○		○		○	○
					84科目	3120単位時間(156 単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の結果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。		1 学年の学期区分	前後期
		1 学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。